



廃校の呼び声に、棲む

デジタル・シネマティック・ホラー

カサッ……

踏み出した瞬間、
沈むはずのない床が
ぐっと沈む。

勘違い……。

足元の影が不自然に伸び、
生き物みたに靴へ絡みつく。




……やっぱり、
いるんだ。

出口、探す。



天井の鈴のような音が鳴る。
規則的に、距離が詰まってくる。



背後の玄関扉が
きつく閉まっている。

ガラスに映る自分の顔。
笑っていないのに、
目だけが震えている。

……戻れない？

鉄と、どこか生臭い匂いが
混ざった。
本命が来る。



いっしょに

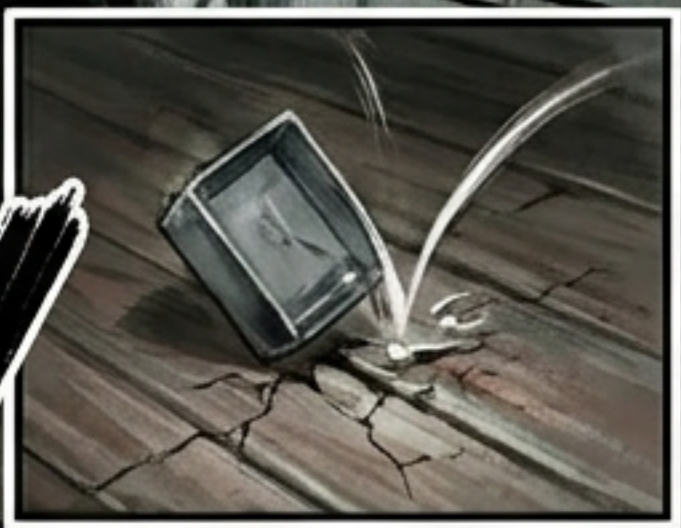
優しさの皮を被った捕食。

柳のようにしなやかな体。
人型でも、皮膚の質感が違う。

笑うより、**噛む**のために
作られた口元。

——なまはげじゃない。
けれど、同じくらい、
容赦がない。

……お前、
動きがでかい。





ごめん、
これで……っ！

木片が当たり、
胸元に刺さる。
底冷えする呻き声。



光が効く。影が縮む。
体体勢が一瞬遅れる。

スマホを正面に向け、
身捌りを備く
最大の明るさにする。



くっ……！

くっ……！



霧の奥で影を縮ませる。
光は道を作る。
その道に、自分の足を流し込む。



空気が急に腐った甘さに変わった。
白い霧が満ち、息を吸うと喉が擦れる。

息が……!!
痛い……っ!!



冷たい夕空が流れ込む。
胸が跳ねた。



脱出、窓……!!

塞がれていても、
外が見えたという
事実が、心を支えた。



板の裏から押し返す力が
が返ってくる。
まるで、誰かがこちら側に
固定しているみたいに。




……諦めない。
私が外に出る。

落ちるはずの体が、落ちない。
足先が宙で止まる。


窓枠の外に見えていた草地在、
目の前で薄く歪む。
景色が紙みたいに剥がれ、
下に別の闇が張り付いている。

逃がさない

チリ...チリ



……やだ。
まだ、終わりじゃ……



逃げ道はあったのに、
出口だけが出口にならなかった。

板が外れた窓は、
奈々が「出られる」ためのものじゃない。
奈々が「入る」ための口だった。

自分の声が、
別の喉で鳴る音。

……怖井奈々。

奈々は、廃校の中へ、
しつかりと“居場所”を得た。

誰かが廃校へ来る。
あこししてけた。
暇つぶしの好奇心で扉を押す。

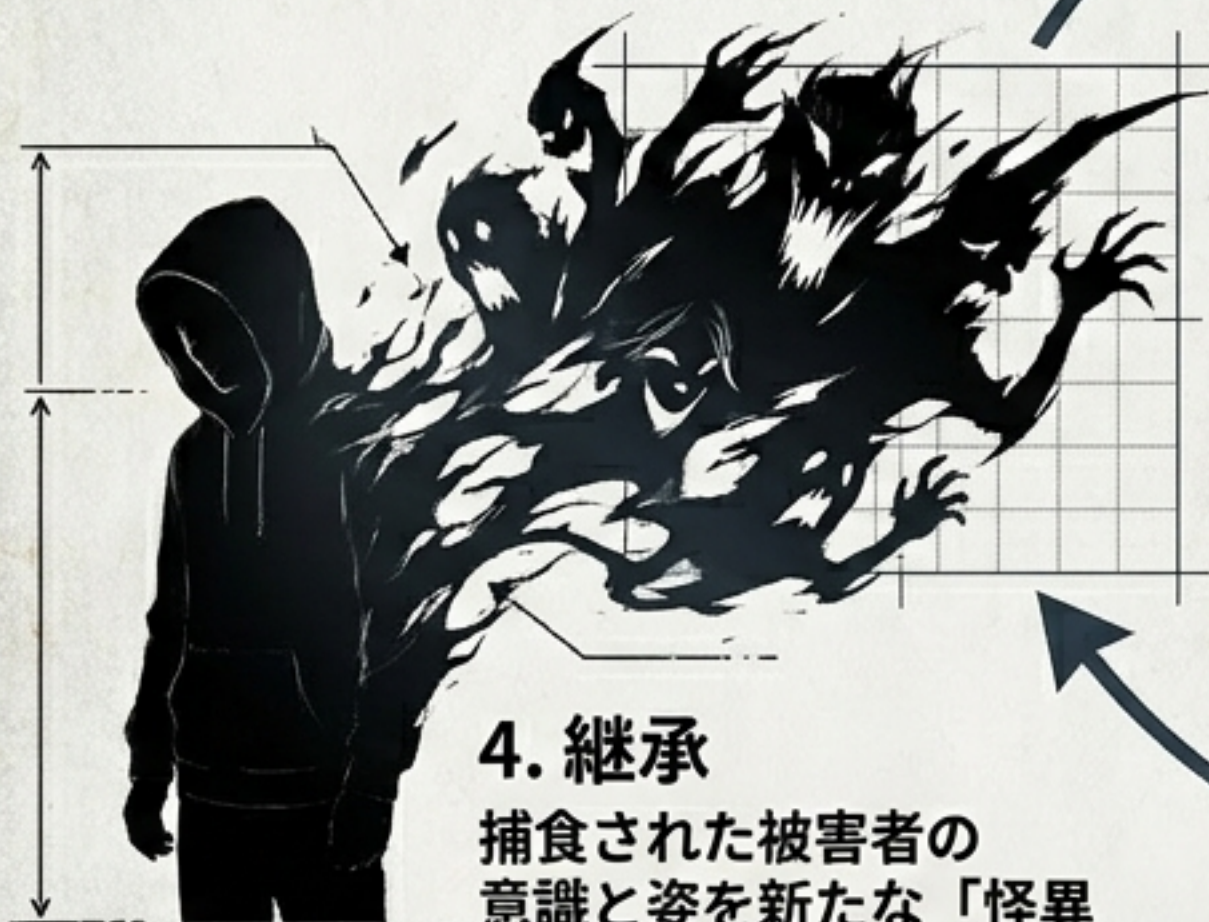


怖井奈々は、
もう“追いかける側”になっている。
逃げ道を知っているくせに、
二二度と誰にも渡さない。

光を奪うために、
もっと近づく。



対象の廃校は単なる心霊スポットではなく、
怪異が自らを維持・増殖させるための
「閉鎖生態系」として機能している。



4. 継承

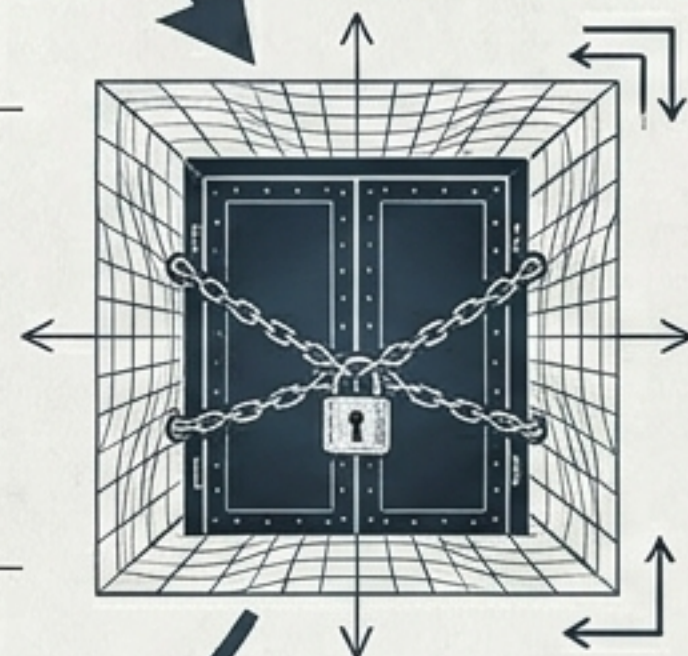
捕食された被害者の
意識と姿を新たな「怪異
(撒き餌)」として再利用する。



1. 誘引

外部の光 (スマホ等) と
好奇心を持つ生贄を誘い込む。

CURSE LOOP



2. 隔離



空間を歪曲し、
物理的な退路
(玄関等) を封鎖。



3. 捕食

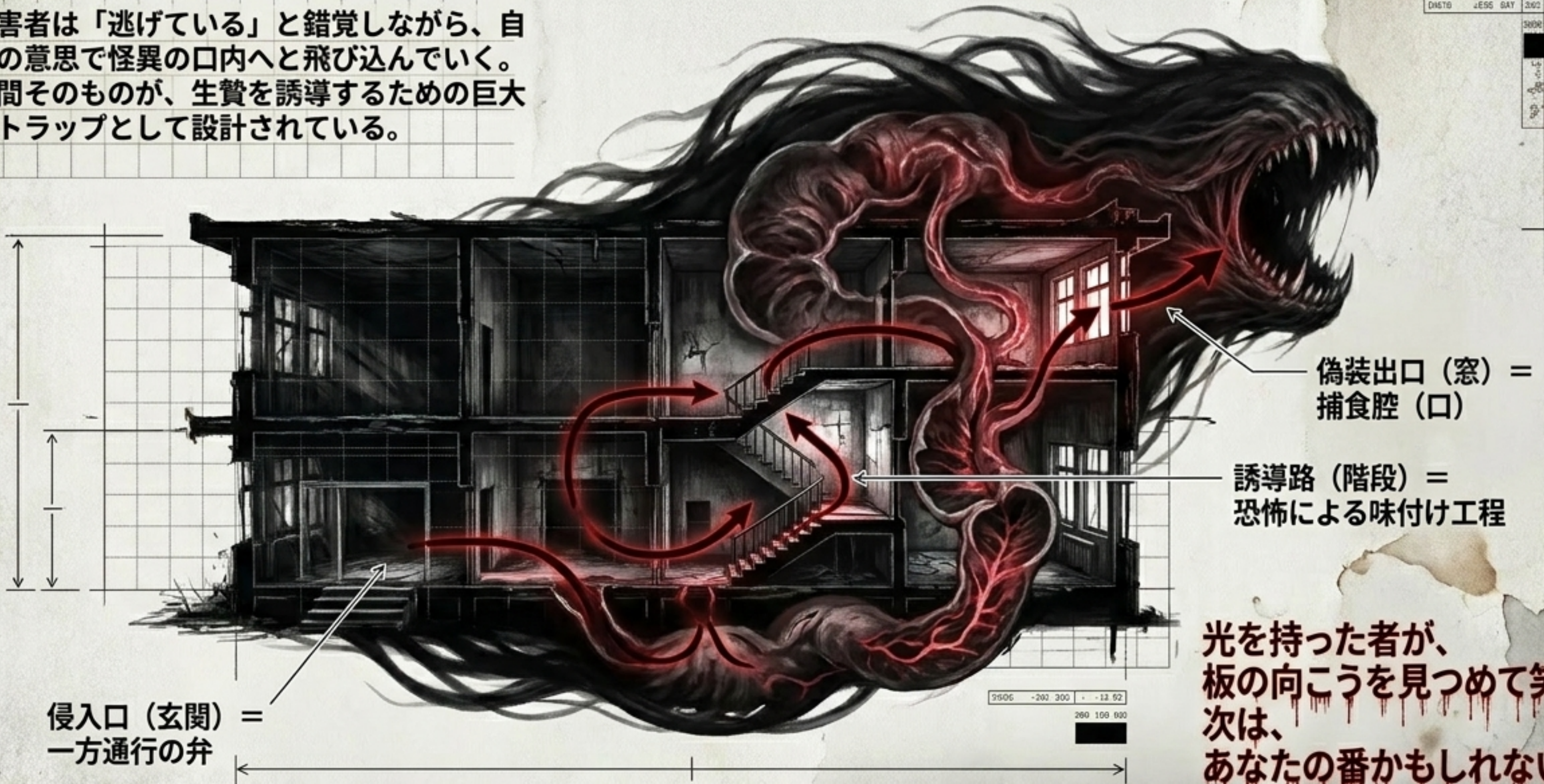
「偽装された出口」へ誘導し、
恐怖が最高潮に達した瞬間に喰らう。

脅威比較マトリクス：「咬むもの」の特異性分析

比較対象	伝承上の妖怪「なまはげ」等	特殊怪異「咬むもの」
目的	戒め、儀式的な脅し。 	純粋な捕食と、自身の「代替わり」。容赦が一切ない。 
物理的干渉力	象徴的・霊的干渉が主。	極めて高い。床を砕くほどの重力干渉、肉体を物理的に引き裂く爪を持つ。
弱点	特定の呪文や護符。	「強い光（スマホの最大光量など）」。ただし、光は防衛手段であると同時に、次なる怪異をおびき寄せる「標的マーカー」として機能する矛盾を抱える。

空間偽装の図解：消化器官としての建築物

被害者は「逃げている」と錯覚しながら、自らの意思で怪異の口内へと飛び込んでいく。空間そのものが、生贄を誘導するための巨大なトラップとして設計されている。



侵入口（玄関） = 一方通行の弁

偽装出口（窓） = 捕食腔（口）

誘導路（階段） = 恐怖による味付け工程

光を持った者が、板の向こうを見つめて笑う。次は、あなたの番かもしれない。